

令和6年 第1回奈井江町総合教育会議議事録(第1日)										
招 集 年 月 日		令和6年12月11日			招 集 場 所		役場2階 議場兼大会議室			
開 会 日 時		開 会	令和6年12月18日			午後 3 時 00 分				
閉 会 日 時		閉 会	令和6年12月18日			午後 4 時 15 分				
出席者 出席7名 欠席0名		町 長	三 本 英 司		○	委 員	矢 萩 優 子		○	
		副 町 長	辻 脇 泰 弘		○	委 員	塩 田 邦 恵		○	
		教 育 長	相 澤 公		○	委 員	山 本 和 樹		○	
		職務代理者	三 原 新		○					
議 事 出 席 職 員		教 育 支 援 幹 主	井 上 圭 世							
		文 化 振 興 幹 主	高 田 基							
会議に付した 議 事 案 件		号 数	件 名					可否区分		
		報告第1号	令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について					承認		
		意見交換	第7期まちづくり計画前期計画(案)					-		

令和 6 年 第 1 回奈井江町総合教育会議議事録

	1. 開会 15:00
井上主幹	お疲れ様です。本日は遠藤事務局長が所用により欠席となりますので私の方で開会させていただきますが、開会の時間となりましたので、只今から令和 6 年第 1 回の奈井江町総合教育会議を開催いたします。町長には、挨拶以降、進行をお願いします。
三本町長	2. 町長挨拶 会議出席ご苦労様です。町の総合教育会議ということで今日の報告案件としては全国学力状況調査の関係と、何よりも来年から始まります第 7 期まちづくり計画の策定にあたって教育分野に関わらず、子育て全体の支援ということも含めて、皆さんや町民の皆さんからも色々なご意見をいただき、しっかりとしたものができました。これから議会でしっかりと審議をしていただくこととなりますが、皆さんとともに作ったという思いで私もおりますので、これがこれからの 10 年間の奈井江町教育行政をしっかり支えてくれるよう、またそれを実践する立場としても頑張っていきたいというふうに思っていますので、そんなことも含めて協議検討を重ねていただければと思います。よろしくお願いします。本日はどうぞよろしくお願いします。
三本町長	次第 3 番「令和 6 年度 全国学力・学習状況調査の結果について」事務局から説明をお願いします。
井上主幹	3. 報告 議案 1 ページをお開き願います。 令和 6 年度の全国学力学習状況調査について 1 ページ目が奈井江小学校の結果 2 ページ目が中学校の結果そして 3 ページ目が、レーダーチャートによるグラフ等の表示になっております。今回の学力状況調査は、令和 6 年の 4 月 18 日木曜日に実施されまして、対象学年が奈井江小学校の 6 年生 26 名と奈井江中学校の 3 年生 23 名で教科は小学生が国語算数、中学生が国語と数学において実施をされております。教科の領域別で見やすくなっておりますので、レーダーチャートにより 3 ページのレーダーチャートを見ながら説明をさせていただきたいと思っております。全国全体の教科全体の状況では、評価の領域別に全国を 100 とした場合の全道および当町のレーダーチャートが示されているところです。 左側の小学校におきましては、国語において「我が国の言語文化に関する事項」においては大きく全国をより高いという状況になっていることと、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」においても、全国レベルより少し高い状況になっております。そして「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」については、全国レベルより若干低くはなっておりますが、全国並みということになっている反面、「話すこと」、「聞くこと」については少し低くなっている傾向にあります。全般的に小学校 6 年生については、国語は得意な傾向にあるというような状況になっております。具体的な傾向としては、話し言葉と書き言葉の違いに気づくこと、読書の意義について

井上主幹	ではしっかりと捉えているが、目的や意図に応じて対応を決めたり検討することが苦手というような分析結果になっております。次に算数ですが、全ての項目において大きく低くなっております。算数理解の課題度が大きい状況です。 続きまして、右側の中学校においてですけれども国語においては、「情報の扱い方」は全国より大きく上回っていますけれども、その他は低い状況で、特に「話すこと」、「聞くこと」と、「言語に関する事項」は差が大きい傾向にあります。意見や根拠具体と抽象など情報と情報の関係の理解というような分野では得意ですけれども必要に応じて質問をしながら内容を捉えることが苦手な傾向にあります。数学においては、小学校同様、数学全般的に苦手な傾向が見受けられ、特に、「確率関数」、「与えられたデータの活用」などの問題は特に苦手な傾向にあります。小中ともに、今年度は算数が苦手傾向にあり、全国全道レベルより大きく低い状況とはなっていますが逆になら小学校では国語が得意な状況もあることから、得意な部分を生かしながら算数への取り組み方への声かけや指導することで、算数が伸びていくということも期待できるのではないかと考え、学校や公設塾「ななかま」でも学習サポートをしっかりと行っていくなど、今後の学力向上に向けて連携した対策を行っていきたいと考えております。 また、例年、本全国学力学習状況調査の数値を公表することとはなっていますが、小中学校ともに現在各学年1クラスという状況もありまして、数字だけで一喜一憂するということではなく、児童生徒の特性に応じた個別最適な学びのサポートがしっかりと行っていくことが大きな課題であると感じています。公設塾「ななかま」も令和3年から小学校3年生6年生を対象に開設し、4年目を迎えました。通塾率も現在46%と多くの児童が通塾してくれているところであります。ただ、通ってきてほしい児童の通塾が実際されていないという課題や、多くの通塾児童がいる中で、学びのサポートがしきれていないという現状も課題としてあります。開設当初は家庭における家庭学習時間が極端に少なかったこともあって公設塾において講師のサポートを受けながら、家庭学習時間を少しでも増やすこと学ぶことが楽しいと思ってもらえるような特別活動の実施、奈井江町という小さい町でも、世界に誇れる企業があったり、様々な活動をしている方がいたり、インターネットを普及する時代において、地理的マイナス要素だけではなく、可能性を引き出せるような、ということで子どもたち自身に見つけて欲しいという思いで事業を展開してまいりました。そうした中で、小学生のときに家庭学習習慣が身につくようになったというのが、今までは中学校への進学で「ななかま」への通塾ができないということもあったものですから、今後は中学生も対象にしたような形での事業展開を進めていく準備、現在はプレ開塾などを行っているところです。そして毎年この全国学力学習状況調査の結果が、全道レベルに達していけるようになればいいと思うのですが、昨今、学びの支援が必要な子どもが増加傾向にあることもあったり、家庭力の低下など別の視点での課題も多くあると感じております。多角的な観点から、教育
------	---

井上主幹	委員会としては政策を進める必要があると感じているところです。 これを踏まえて一番下の奈井江町の学力向上策としては、今後も引き続き小・中学校で統一した学習習慣の徹底、習熟度に応じた指導の充実そして公設塾との連携により、家庭学習習慣の確立および自主学習サポートを行うとともに、学ぶことの楽しさを感じられる特別活動を実施すること、そしてタブレット端末を活用した授業改善、AI 教材活用による個別最適な学びの推進、そして読む力を育て、話す・聞く・書く力もつけていけるように、町の図書館司書と学校図書担当教諭にある児童生徒への読書活動の推進支援に力を入れていきたいと考えています。 これらの結果等については12月の広報においてもお手元に配っていますけれども、特集記事として掲載をしているところです。まず学習習慣については何より家庭が第1ということ今年度も引き続き呼びかけさせていただきました。それをサポートする役目として、行政が現在行っている取り組みについても掲載し周知を行っているところです。 以上、令和6年度の全国学力学習状況調査の結果報告といたします。よろしくお願いいたします。
三本町長	ありがとうございます。 それで今事務局から説明ありましたが、この結果を見て、委員の皆さんから何か感想なり、疑問なりがあったら率直な意見1人ずつ聞いてみたいと思います。まずは、先輩委員である三原さんの方からお願いします。
三原委員	まず小学生の国語が、珍しいといったらおかしですが、全道平均がいつも低い中で、高い結果が出ているなと思いました。3 ページに色々分析が書かれていますが、全然専門家じゃない今自分が思っていることとして、全然間違っただけのことになってしまうかもしれませんが、もしかしたら、このテストの結果って、カリカリ勉強した人が良い点を取れるわけではなくて、日常会話の量じゃないかなと思っています。日常会話をたくさんしている。日常的問題解決をたくさんしている。例えば家庭でお雑煮を作ります。お餅を買い忘れました。もうお父さんお母さんはもうお酒を飲んでしまっています。どうしよう。お餅を買いに行くのか、お餅を使わずうどんで代用するのか。そんなレベルでも問題解決をしている量で、このテストの結果は変わるのではないかなと思います。毎年問題を見ている。以上です。
三本町長	ありがとうございます。では次、矢萩委員いかがですか。
矢萩委員	国語が全国的に高かったというのは、徐々に「ななかま」でちょっとでも勉強してる子たちが増え、家庭学習とか少し進んでいる効果が出ているんじゃないかなという気はします。算数については、結果がでるには、時間がかかるというか、やったからすぐできるというのではなくて、継続しながら学習していくことが必要じゃないかなと思うので、結果がでるのはもう少し先なのかなと思っています。ただ、データ的に見て、全国学力状況調査は、毎年対象児童生徒が違うので、結果を毎年比較しても、同じ子どもがどの程度伸びているのかということがわからないので、その子どもを追って例えば6年生に受けた方が、中学3年生でどの程度伸びているのかが比較効果だと

矢萩委員	思います。今の6年生の子たちが中3になったときに「ななかま」で行って る国語と算数や他の教科で取り組んだ成果がどれぐらい出てくるのかって いうデータが取れてくるので、それを踏まえて「ななかま」で今後どのような 取組み、というか、学習向上面においてできることがどれぐらいあるのかな っていうので、今後中学生を対象を拡大していった中で、どのくらいの効果 が出てくるのか楽しみな部分もあります。
三本町長	それでは塩田委員いかがでしょうか。
塩田委員	今年から新任になったばかりなので、ここまで教育に携わってこなかった り、意識もしてこなかったこともあるのですが、最近、小中学校の校長先生 の通信見ていると、どうしても学校イコール家庭っていう部分でずれがで きているのかなって思います。でも逆に考えると、今親の世代が私達が育て た子ども達なので、家庭環境の違いであったり、共働き、うちは自営なので 必ず私が家にいましたから、そういう学習部分もサポートできていたのかも しれないのですが、今の保護者の方って、働いている方も多いですし、逆に 土日仕事を入れる方が多いので、家庭で学習を身に着けさせるというこ とが、ちょっと難しくなっているように感じます。その部分を「ななかま」 さんとか、塾に入れてサポートすればいいのではないって考えている方たち も増えているように感じます。その結果が、こういう状態だとしたときに、 自分の家庭を見ないで、行政が悪いっていうふうに考えてしまう方も確かに いるようにも思います。でも、私達世代もちょっと考えていかなくてはいけ ないかなと思いつながら、子どもたち世代に口出しもできないなという思いも あり、今は、この状況を見ながら検討していきたいなと思っています。
三本町長	山本委員はいかがでしょう。
山本委員	先日実はうちの娘をサッカーの試合に連れていった時に、サッカーのコー チが、6年生の子たちに1000円の5%はいくらか、という話をしていたので すが、答えられていませんでした。まさに、ここに書いてあるままだなと思 いました。国語も高いのですが、算数も国語の能力は必要だと思いますので、 算数に必要な国語の能力が足りていないのかなと思いました。今の子ども達 は習い事、スポーツ少年団などもあって忙しく、公設塾に行ける子、行きた くても行けない子もいたり、週に毎日いける、週に1回しか行けないとか、 色々だと思います。学校の勉強は、分からなければ学校の先生に聞いたら良 いともいいますが、子ども達に聞いたら「苦手だから聞かない」というよう なことを言うわけです。「親ガチャ」ということばがありますが、言葉は悪い ですが、先生に対してもそのような印象、担任の先生は自分で選べませんか ら。そうした時に、今配られているタブレットを活用して、調べたり自学自 習の道具にできるのだから、そういった使い方ができるということを子ども 達自身が落とし込めたら良いと思います。また算数は、実際の生活の中でも 使うものなので、スーパーへ行って1000円しかない。これで何が買えるか という体験を通じて考えるということが身になると思いました。
三本町長	ありがとうございます。 皆さんの今のご意見をお伺いして、三原委員さんは、日常生活の中での会

三本町長	会話の量が大切なのではということですね。矢萩委員さんは、今色々なことを取り組んではいるが、すぐに効果がでるものではなく、同じ児童生徒の伸びを考えた時に、今後「ななかま」の新しい取り組みの効果はこれからでてくるといこと。塩田委員さんからは、まさに家庭での関わり方の変化、山本委員さんからは、情報を活用する力も必要という意見だったのかなと思います。皆さんの意見をお聞きして、僕は逆にというか、なるほどそういうことなのかなと思ったのは、学力状況調査は、子ども達の学力を試しているのではなくて、奈井江町の学力を培う町全体の教育水準が問われる試験なのかなと思いました。先ほど「ガチャ」って表現がありましたが、奈井江町は少人数であるがゆえにその影響が大きいようにも思います。毎年、この学力学習調査の結果については議論しますが、奈井江町として子ども達の学力向上は欠かせないということがあって、「ななかま」や教育施策の取組みを色々やっていますので、それらの取組みが、私たちが目指す「教育ビジョン」に沿っているのかという点検が必要だと思います。とはいいいながら、教育の成果は小さなことも積み重ねだと思しますので、いつで完成なのか、5年後なのか10年後なのか。「教育ビジョン」に基づいた教育体制を実践する立場として教育長は全体の中でどう考えますか。
相澤教育長	今年度、赴任してきた校長先生や教頭先生に聞くと、奈井江はやっぱり学力ということだけで考えると「レベルが低い」、しかし一方で、もう一つの特性として、「与えてもらわないと」とか「指示されないとやらない、やれない」ちょっと話がずれてしまうかもしれませんが、小学校に入って、1年生とか2年生ぐらいまでは、まだ保育所の延長かなってというのが、今の子ども達の現状のようです。そして、3～4年生位まで、お互いに突っかかりたり、ひどい言葉を言ったり、やられたらやり返し、泣いてしまうという状況もある。そこから少しずつ大人になり、そういうことがなくなっていくようです。学力だけで言ったら「ななかま」を開塾たことで、何とかようやくこの数字になっているのかなというふうに僕は思っています。じゃあなぜそうなのかって言ったら、僕らの時代は、1クラス40人ぐらいいて、やや大量生産みたいな授業を受けてきました。しかし、今は30人とか30人切ったりしている中で、さらに文科省が言う「個別最適な学び」というところまではまだ遠いと思っていますけど、人数は確実に減っていて、先生たちの目の行き届きやすさはある。さらに特別支援学級の先生や、特別支援教育支援員もいっしょに教室に入ったりで、複数の先生で1クラスを見たり、さらに今年からは、奈井江小学校では、5年生と6年生の算数のちょっと苦手な子たちを取り出しをして、別室で習熟度に合わせた指導をしてもらったりということもやっている状況なのです。それらを包含して僕が思っているのは、やっぱり非認知能力が伸ばされていないということで、議会でも少し触れさせてもらいましたが、家庭の力が落ちているのかなと、それはさっき三原委員が言ったようなことに通じるのですが、そこを強く強く、だから、家庭の意識というのを、もう少し上げていかないと、例えば、この全国学調みたいなものの数字も反映はされていかないのではないかなと思っています。一方でもう一言ですけど、

相澤教育長	「ななかま」の中学校のプレ開塾を始めたのですが、まだ2年生と3年生しかやってなくて一部の子たちかなって感じなのですが1日に平均して2年生が5人、3年生が5人で10人ぐらい来ています。ところが、中学生になって「ななかま」に来ると、本人たちは目的意識を持っているので、すごく積極的に勉強しています。小学校の「ななかま」の効果みたいなものが出てきていると思っています。数学は、僕も赤点ぎりぎり生きてきた方ではありますが、それでもテストがあるとなれば、家で一応勉強はしました。でも、今のうちの子ども達を見ていると、どうしてもスマホを見てしまうのです。スマホを見て勉強をしていない。家庭でのスマホやタブレットの使用ルール作りがされていかないと、家での勉強時間はなかなか伸びていかない気がします。
三本町長	もう1つ僕の感想みたいなこと言いますけど、2~3日前の新聞にも載ったり、あちこちで最近言われ始めていて、コロナの後、タブレット学習に生かすそれなりの効果が上がってきていることが評価されている一方で、タブレットからやっぱり離れて、ペーパーに戻ってということが言われ始めていて、今日の北海道新聞のある中学生で、タブレットではなかなか駄目だったので自分でペーパーにして勉強し直したら点数があがりましたと。要は、「ななかま」が全て素晴らしいとか、タブレット教育が素晴らしいとか、決めないで、毎回点検していかなければ、「絶対」っていうものはないのだと思います。山本さんがおっしゃっていた、情報活用することに対しては今の子は長けていても、「1+1」がどうして「2」なんだろう、っていうことがわからないと、5%が何だかわかんない。電卓で、掛ける5%で押したら出てくるのだけど、理解ができていないと、導き出す力だけではだめというか、理解しているから導く力につながると思うわけです。でも今の世の中全部コンピュータで動くようになってしまっていて、AIで動くような時代になったときに、その5%が何なのか覚えなくても生活できるし、そんな時間がなくなってしまうのだけれども、覚えなくていいのか、逆に言うと、覚えなくてもその操作をすることで自分のいろいろな世界が広がるとしたら、教育の方針を変えて、そっちを伸ばす必要があるのか、でもそのことは、教育長を初め主幹たち皆さんがあちこちに行ったり、例えば川崎とか、この間のテレビもそうですが、長沼でもやっているいろいろなこと「生きる力」「考える力」を養おうとする教育が少しずつだけ注目されているのと、またちょっと違う方法になっていまいかもしれない、わが町はこれで行きますっていうことを、しっかり持っていないと、奈井江町は「子育て」を応援しますっていう町で、僕が町長という立場になって応援するって言っているから、私はこっちも応援して欲しい、こっちの方は応援してくれていないんじゃないか、ということになるわけですね、だからこそこの最低限、奈井江町の教育、まさに教育ビジョンを柱として、目指すところはここなのだよ、そのツールとして「ななかま」があったり、別のものもそうかもしれませんが、そういうものがあるのだからってことを常に確認しながら進んでいかないとぶれちゃうのかなと、今回思いました。僕の思いですけど何か皆さんの方から違うのじゃないってあつ

三本町長	たราบひ聞かせていただきたいたです。どうですか。
三原委員	応えになつてゐるかわかりませんが、さきほど教育長の話の中で、中学部の「ななかま」の話が出ましたが、プレ開塾が始まって、初めてその状況を聞いたのですが、中学生は目的意識を持っているとおっしゃっていましたが、その目的意識って何でしょうか。
相澤教育長	始めた時期が12月の頭だったので3年生は、高校受験が視野に入っていますし、2年生は定期テストですね。
三原委員	そうですね。その目的意識が小学生にはないわけで、そういった意識を小学生に持たせれば、ちょっと変わるかもしれない。それが成績的なものなのか、もしくは頑張ったねって言うてくれる経験なのか。小学生にとっての大きな目的になると思います。そういうところでしょうか。
三本町長	わかりました。矢萩委員さんどうですか。このあとの日程の意見交換、まちづくり計画はそんなに時間がかかんと思うので、全国学調の結果はともかくとして、これをどう捉えて、僕らがどうするかってことが大きな問題だと僕は思っているんで、ちょっとここに時間を使わせてもらいたいと思います。
矢萩委員	学力テストの結果は確かに大切だと思うのですが、確かにさっき皆さんおっしゃっていたように、子どもたちが受動的で能動的ではないというのは、私も普段の生活から感じるのですがどうしてそうなのかな、といつも思っていて、やっぱり、家庭でご親御さんたちが、色々なことに興味を持ったりしていないのだと思います。やっぱり子どもに「あゑしろ、こうしろ」っていう前に、まず親が色々なことに興味をもって、情報を引っ張ってきたり、家庭で例えば社会情勢や世界情勢、経済についてとか、健康についてとか、そういうことを、お子さんと話てるのかなということをよく考えています。知らないことがいっぱいある子どももいるし、世界のどこで戦争をしているかと、すごくそういうことに対して敏感に情報を得ている子もいるし、やっぱりそういう子は、家庭でそういうことを話しているのだなと思いますし、そういうことが大事だなと思っています。小さい頃から色々なことに興味を持つというか、この奈井江のことだけじゃなくて、世の中でどのようなことが起きているのか、自分たちの将来にどのようなことが起きているのかっていうことを、小さい頃から家庭で話ができる環境だったら、それに付随して色々なことを学んでいけるというか、そういうことが大切だと思います。そういうことを、家庭の親御さんたちに私達がどう発信していけるのかも課題だと思います。
三本町長	山本委員はどうですか。
山本委員	いろいろ先ほどから情報も大事だし、紙も大事だし、自分は算数と漢字とか紙で書かなきゃ駄目な方なので、書くことは大事かなって思っています。あと、色々なことを知る、調べなくても、さきほど5%の話がありましたが、理解しなくても答えが出てしまう。自分は、音楽、楽器をやっている、友達がやっているものも、知らないよりは知っていた方がいいと思いますし、楽譜に書いてあることをポンってやったら、ある程度形になるのですよ。昔な

山本委員	がらのバロックも楽譜をルールに、ジャズもそうですが、書いてあることをある程度そのルールに従って演奏すれば形になりますが、その背景的なものであったり、これはこういう音楽だよってことを知っていた方がいい、知らないよりは知っていた方がいいと思います。興味を持ったら、そこにぐっと深めると、どんどん伸びると思います。私も子どもが2人いますが、下の子がタブレットで動画を見ていて、これの何が面白いのか、くだらないことをやってるなって思うのですが、この前、教育の明日を考えるつどいで植松さんの話聞いたときに、その子にとって伸びていくものが何がきっかけになるかわからない。確かに、自分の知識も自分が好きで読んでいた漫画であったり、ゲームであったり、その知識が今も生きています。知識だけじゃなく、漫画の中の名言であったり。それって仕事をしていても、同じことが言えたりすることもあります。大人の価値観でくだらないと思うものも、その子にとっては、どこで生きてくるかわからないなっていうことを、最近思ったりしています。意見としてまとまっていないのですが、全部大事なのかなって思いますし、便利なものもそうじゃないものも大切なのだと思うようになりました。
塩田委員	少し話がそれてしまうかもしれませんが、教育委員会の新人研修のときにいじめの話も聞きました。やっぱり低学年のうちに、これは「いじめ」ということを、きちんと説明して納得させる必要があると思いました。今の4年生ですけど、学校に来なくなったって、この原因はこういうことだよって話を聞いたら、結局1、2年生の頃のことが原因で、4年生になって初めてじゃなく、それを家庭でも先生でも学校でも、こういうところが今後のいじめに繋がっていくのだっていう理解も必要だと思います。学力テストの結果だけではなく、生活面での力もつけていく必要があると思いました。あとは、もう常にタブレットがそばにあるので、漢字のテストの練習も、山本さんが言っていたように、私達大人は心配なので、まず書いてみよう、わからない字は書いてみようって言うのですが、今の子はタブレットでその漢字を検索して書く、そうすると体系的に覚えるので、自分の頭の中で想像してこの漢字を本当に理解しているのかなと心配になります。やはり家庭学習で書く力や計算する力というのを、周りの方をお願いする前に。そこの根本が違ってきているのが、現代なのかなって思います。今は時代も変わって、私たちの子育ての方法も違うので、それが理由って言ったら申し訳ないのですが、やっぱり教育に関しても生活に関しても、ずれも感じてきています。すみません。応えになっているかわかりませんが。
三本町長	今、皆さんの聞いていて、まとめになっているかわかんないのですが、この間の議会の答弁もそうですけど、家庭いわゆる保護者の力っていうのはやっぱり影響が大きい。子どもたちが色々なことに基礎知識を持っていることによって、もっと広がるということを当然そうなのですが、そのためにはやっぱり、去年も同じ議論をしていますけど、基礎知識としてのものをどこまでちゃんと蓄え、そうすると、今学生でここしかなくても基礎知識がしっかり持っていれば、いつかこの花が咲くよねというスタンスで僕らは教育ビジ

三本町長	ョンをまとめてきていると思うので、そこのぶれは今のところないのかなと感じました。ただ、「家庭の力」みたいなものをどうやって引き上げるのかっていうことになったときに、それこそ社会教育担当として高田主幹意見はありませんか。学校教育としては結構いろんなことを仕掛けていると思いますが、社会教育っていうのはどう思いますか。奈井江町は、僕らが小さかった頃は、社会教育は奈井江町は進んでいるみたいなことがあったので、色々な事に挑戦する、今は逆にそういうことに対して、町の人たち自身が、うちは行政で不満ということではなくて、あまり関心を持たなくなってきた、他の媒体がいっぱいあるので、老人大学とかそういったものも、もういらないみたいなことが実態だとしたら、これからどう社会教育をしかけていくのか、考えはありますか。
高田主幹	「ななかま」でやっているように、色々な体験をさせるということが必要だと思います。今、コミュニティスクールでも色々やり始めているのですが、色々な会社に訪問して、例えば色々な職業があったりとか、そういうことを体験させたり、今まで知らなかったけど、こんな仕事があるということ、この仕事は私に向いているかもしれないとか、違う視点で、いろんな経験をさせるってということが必要なのかなと思っていますので、今コミュニティスクールでもやっていますが、それをもっと突き詰めていったら、次の人生を切り拓いていけるような子どもたちになるのかなと思います。あとちょっと学習の事から離れますが、先般、上砂川町でプールが使えなくなって、うちの町民プールを使っていたのですが、そのプールの管理人さんから聞いた話ですが、上砂川町からバスで来て、先生と子どもたちがプールを利用するのですが、奈井江の子はしっかりと挨拶をするのですが、上砂川から来る子は挨拶をしないで入って、終わってからそのまま帰ると言っていました。挨拶ができる奈井江町の子ども達は、すごいいいことだなと思いました。学習の面とは別ですが、そういった点で。
三本町長	学校教育の立場からどうですか。
井上主幹	本当に皆さんの意見を聞いてその通りだなんて思いました。あとやはり、正解が1つじゃないということです。あと町長が、うちの町としては、これをでいくと言ったのも、果たして「これ」が1つであるべきなのかっていうのは本当に思います。「ななかま」をしていく中でも、毎月教頭先生に入ってもらって、参考意見をいただくのですが、やはり子ども達1人1人が本当に違って、やり方だったりやる気スイッチだったり、気になることも違ったりするので画一的なものということではなく、選択できることが大事だと先生もおっしゃっています。なので、私たちは紙の世代で育っているので書くことが素晴らしいとか、書くと覚えるよね、直接やっぱ紙に触って読むのがいいよねって思うのですが、生まれてからずっと電子媒体で育っている今の子どもたちは、もしかしたら紙媒体の良さを知る生活をしていない。となると、私達の感覚だけで捉えて方向性を決めるのも、もしかしたら間違っているのかもしれないと思ったりもします。そう言いながら、今の子ども達すべてがそうかというところではないと思うので、子どもたちに

井上主幹	選択させること、あなたならどうしたいか、どうやったら学べると思うかということ、本人たちに考えさせること、選択させていくってことが1つのステップなのかなっていうふうに思っています。「ななかま」でも「こうなさい」、「ああやりなさい」、学校でも、「こうやったら簡単に覚えるよ」ということ事ではなくって、その方法から選ぶことからしないと、全てが与えられないとできない、もしかしたらそういうふうに形づくられてしまっているのかなとも思うので、私も子どもが2人いて反省するのは、「これが楽だから、効率的だから、失敗しないようにこうしたらいいよ」っていうことを教えてしまっていたなという思いがあるので、今私が思うのは、失敗して自分で立ち直ったり、修正できる力を育てるべきだと思っています。なので、あえて教えないとか、失敗させるっていうことをテーマに進めていこうと思っています、回り道でもそれが近道になると信じて、そういう思いでやっていきたいなと思っています。
三本町長	わかりました。 では、報告第1号はここまでにしたいと思います。
三本町長	では、次第3番「第7期まちづくり計画前期計画」(案)の意見交換に移ります。 ここで、私の思いを今一度伝えさせていただきたいのですが、やっぱりみんなで色々時間かけて議論してきた「教育ビジョン」、こんなことしたってしっかり「知る力」だとか、色々なものを持って将来自分がいるっていうか、「生きている」ということを体感できるようなことをきっと目指しているのだと思います。基本的には、奈井江町はこれで行くっていうのは、そういう人間作りのために「ななかま」なら「ななかま」っていう事業をやっています。あるいはタブレットの授業をやっています。でもこういうこともやって欲しいという意見があったとしたら、それは切り捨てるのではなくて、なぜこれをやっているのか、こういうことに向かってこれをやっているのか、まさに予算と同じなのだけれども、限られた時間の中で、今私達は奈井江町として、全体の中でこれを選択して進めていまいすよってことを、やっぱり家庭・保護者の人たちにはしっかりと理解してもらわないと、批判と批評だけになってしまうのかなと思っています。同時に、だとすると、違うのではないかという意見に耳を傾けながら検証していかないと、一方的な思い込みになってしまうのかなと思っています。そういう意味で、本当に「教育ビジョン」に関係する人たちに常に意識しながら、さっき言ったタブレットと紙の問題だとか、親の関心度だとか、色々な問題があったときに、何かその時にやっぱりそういう大きな背骨があると、その背骨を大切にしようという向き合い方という方法論が出てくるような気がします。そのようなことで、生意気ですけども、これからは、教育委員会の中で、そのようなことを思いながら議論して政策を進めていただきたいと思います。あとその執行官は、こちらにいる教育長なので、そのことも含めお願いをしたいと思っています。何か言っておきたいとかありますか。
相澤教育長	令和4年度に「教育ビジョン」を作っていまして。全体が8年、前期と後

相澤教育長	期4年4年で見直しをしようっていうことで、令和8年度が後期スタートなので、令和7年度は、後期のものをみんなで議論していく年になります。次年度のこの会議では「教育ビジョン」を、町長と副町長に見てもらったり、議論するようなことになると思っています。
三本町長	わかりました。ありがとうございます。 では、意見交換ということになってますけれども、事務局から説明をお願いします。
井上主幹	4. 意見交換_令和7年度教育行政（案） 私から、それでは議案の4ページをお開き願います。 すいません、ここのところでちょっと修正が何点かあるので申し訳ありません。4ページのテーマですが、「おもいやり明日へ」を「みんなで奏でるおもいやりのまち」に修正願います。あと7ページ数字2番目、「2. 豊かな心と健やかな体の育成を推進します」の①番目の令和7年度予定のところ、黒丸になっていますが、普通の白丸の誤りです。そして8ページ「1. 生涯学習活動を推進します」の②番目、中学校部活動の地域移行のことについて記載していますが、ここの執行方針には丸をつけていませんでしたので丸を記載いただければと思います。大変申し訳ございません。 それでは、説明に入りたいと思います。まず4ページ、上段政策の内容を記載しておりますけれども、こちらについては令和4年の教育ビジョン策定内容に合わせて一度修正を加えておりますので、次期第7期まちづくり計画についてはこの内容はあえて修正は加えておりません。そして次の施策の体系の部分ですけれども、こちらは、令和4年度教育ビジョン策定時に体系までの修正を行っていませんでしたので、次期まちづくり計画に合わせて、教育ビジョンに掲げる3つの重点項目に合わせて修正を加えています。以下5ページ以降、第7期まちづくり前期計画において内容を拡充したり、新規事業として掲げた部分についてピックアップをして説明をしたいと思います。 教育支援係といたしましては、6ページ「3. 多様な教育機会の支援を推進します」の④番です。「子どもの学習意欲の向上と、保護者の負担を軽減するため、高校通学費等の一部を助成します」というところを新規の事業として掲げております。こちらの内容といたしましては、町外に通学しようとする高校生が自分の学びと意欲と可能性を通学費の負担の観点から通学自体を諦めるというようなことがないように、通学費に関わる負担の一部を助成しようというものです。通学費の助成額の計算方法といたしましては、現在一般的に利用されているJRの定期券の購入代金、現在は教育委員会の段階として試算しているのは、6ヶ月定期券で積算をしているところです。その6ヶ月定期券の2分の1の額、概ね上限としては月1万円の助成を検討し、助成をするっていう方向で検討を進めています。現在の当町の中学校生徒の進学先としては、過去3ヶ年の平均で滝川に38%美唄に17%砂川は15%、岩見沢が10%その他札幌への通学が3%、札幌その他の下宿が12%というような割合になっています。そういったところで主に滝川岩見沢間の通学制が主というようなこともありまして、来年定期券の改定でちょっと上がるのですが、滝

井上主幹	川への通学が 5 万 5330 円で 1 ヶ月に換算すると 9,222 円、岩見沢までだと 6 ヶ月定期で 62,180 円、1 ヶ月定期で 10,363 円というような計算になっています。札幌だと 6 ヶ月定期で 121,920 円、1 ヶ月 20,320 円ということになるのですが、助成額として概ね定期券購入額の 2 分の 1、そして上限額を 1 万円と設定すればおおむねの家庭において 2 分の 1 の負担軽減がされるであろうという試算で計算をしているところでもあります。またその他の下宿舎については、当然通学定期という購入はないのですが、経済的負担は通学生以上にしているということもありまして、下宿代を負担している通学費が発生しない家庭においても、上限額 1 万円については支援をしていきたいというような内容で制度設計を考えるとしているところです。 またあと拡充新規として黒丸を記載していないのですが、令和 7 年度の予算として、現在予算要望しているものの事業として、先ほどこちと話をした中学生版の公設塾、そして小中学校生に向けた性教育の講師の謝礼、そして教員向けのプログラミング講座の実施というようなことを令和 7 年度予算に計上させていただいているところです。こちらについては、既に令和 6 年度から検討を開始したり、公設塾に関してはプレ会塾等実施も既に進めていることから、あえて令和 7 年度の拡充とか、新規というところで黒丸にはしていないというような状況であります。教育支援からは以上になります。引き続き高田主幹の方から文化振興の説明をお願いいたします
高田主幹	はい、引き続きまして文化振興係から説明をします。 8 ページになります。「1. 生涯学習活動を推進します」の②番「中学校部活動の地域移行を進めるため、部活動地域移行検討委員会にて検討を重ね、近隣自治体との連携を推進します」を新規に掲載しております。現在、部活動地域移行推進地域移行検討委員会委員の選出を各団体に依頼しておりますけれども、数団体の選出が遅れているため現在会議は開催できておりません。委員が揃い次第会議を開催していきたいと考えております。また会議の内容といたしましては、令和 6 年度中に市町村の事例や、町における部活動に関する課題の洗い出し、課題解決策の検討や地域クラブ活動のモデルプロセスの分析を行い、令和 7 年度から当町でカバーできない部活動などの議論を含め近隣自治体と調整、連携を図って参りたいと思っております。 また継続事業となりますが、⑫番「社会教育センターの適切な維持管理を行います」では、令和 7 年度に低濃度 PCB 含有変圧器改修のための公民館電気設備工事を、9 ページになります「2. 楽しく参加できる生涯スポーツを推進します」の⑥番「体育施設の適切な維持管理を行います」で、格技場トレーニング室のエアコン設備工事のため町体育館空調設備工事と、平成 14 年にオープン 20 年以上経過している町民プールなえっこの改修工事を予定してございます。 文化振興係からは以上です。
三本町長	それでは、今、令和 7 年度 of 教育行政の説明がありましたが、こちらについてもみなさんのご意見をお伺いできればと思います。
井上主幹	高校の通学費助成が今 5 割、1 万円を限度に助成ということで検討してい

井上主幹	るのですが、今現在まだ財政ヒアリングをしていないので、具体的な細かいことまで決め切れていないので、皆さんのから、このことについてのご意見をいただければと思います。
三原委員	うちには、まさに高校生がいるので、ありがたいとしか言えないです。他の町もやっているのでしょうか。
井上主幹	他自治体でも助成しています。
三本町長	さっき説明聞いてびっくりしたので、元々の生徒数が少ないのに、札幌が3%も通っているのですね。下宿も12%でしたか。
井上主幹	スポーツで進学している子がちょっと多い多い世代でもあります。これからも同じように推移するかっていうとちょっとわからないです。
三本町長	そういう子どもたちには下宿代が1万円で終わるとは思えないので。どんなこととしても上限1万円は支援するというような支援がいいのかもしれない。
井上主幹	はい。
三本町長	奨学金制度を作ったらどうかという意見のあったり、最近新聞で、いろいろUターンやIターンのために、奨学金に対する返還支援を行った方がいいのではという意見も今回の議会で出たのですが、滝川市もやるし、あちこちでもそういった意見が出ているのですが、子どもたちの教育を受ける機会を少しでも支援したいっていうところもベースにあって、通学費用とか出てくると思うんですけど、その奨学金の制度っていうのは皆さんどんなふうに思いますか。あったらいいなという話じゃなくて、さっきの話じゃないですけど、全部はできないのでやるとしたら、こっちの方が広く平等にっていうようなことで、この通学費の助成ということに辿り着いたのだと思うのですが、それはそれとして、奨学金があった方が、貧しい人という表現が正しいかわかりませんが、そういう方たちに向けて、高い知識を得る支援をするべきだというような考えもあるうかと思うんですけど、そこら辺はどうですか。奨学金と通学費、わかりやすく言うと天秤にかけたらどっちがいいと思いますか。
矢萩委員	奈井江で奨学金制度を作るってことですか。普通、高校の奨学金制度がすでにあると思いますが、それとは別にとということでしょうか。
三本町長	そういった奨学金の返済が始まった時に、こっちがサポートするっていうのも1つの方法かと思います。
矢萩委員	サポートとは。
三本町長	代わりに返済するとか。実質本人の負担がなくなる
矢萩委員	本人は返還しなくていいということですか。
三本町長	たとえば、半分とか、全額とか。
矢萩委員	高校の授業料っていうことですか。
三本町長	奨学金ですから授業料だけということにはならないと思いますが。
矢萩委員	どちらかという大学みたいなイメージがします。
三本町長	はい。僕はそれこそ高校のときに、奨学金を借りていたのですが、今は、

三本町長	その額がものすごく大きくなっています。大学卒業するまでに300万とか400万円の借金を背負っているのですよ。だからそこに対して返還を3分の1でも10分の1でも支援しましょうとか、そういう仕組みを考えている町が結構出始めているので、どうせ返さなきゃいけないお金だからといって親が全額返済している家庭もあれば、自分で返済している人もいます。そうすると、毎月の返済額が大きくて結婚もできないという話も聞きます。そういうところに対して支援をしてあげることによって、大学行きたいと思ったりするとしたら、そういう仕組みもあってもいいのかなという議論をした事もあるので、皆さんの意見をちょっと聞きたいなと思います。大学だけではなく、スポーツを頑張る子どもへの支援といったこともあったりするので、一概に奨学金への支援が良いということではなく、色々な意見があるとは思いますが。
塩田委員	私も2人の子どもがいて、主人が亡くなったこともあって、長男は無償で奨学金を借りられました。返済額15,000円の35年だったかな。
三本町長	無利子のものですね。
塩田委員	次男の方は利息あり、月16,500円の30年か35年でした。すると、利息だけで60万っていう額になってしまいました。大学卒業して就職、1年目からもう長男は15,000円、次男は16,500円の返済が終わるまで毎月口座から引き落としされる。それを町が無償化するというのであれば、それなりの審査をしないといけないと、ただ単に無償だからといって、目的もあまりなく大学進学をする家庭もでてくる可能性があると思います。本当の意味で、進学を諦めている子どもがいて、そういった子にきちんと支援ができるのであれば、そういった制度は意味があると思います。とはいえ、やっぱり子どもたちも行きたいという思いがあるのであれば、親にも責任があると思います。そして、そういった支援が今できたとしてもじゃあ、5年後、10年後、もっと将来に向けて同じその制度のままでいけるかどうかまで、しっかり議論していかなきゃならないのかなと思います。
三本町長	僕が借りたころ、50年前、50年以上前の話してもしょうがないのですが、その頃利息はありませんでした。借りた人がきちんと何十年かかって元本を払うという、その後、少しでもたくさんの人たちにということで利息を取るような今の仕組みに変わったのですが、今は平均月60,000円とか70,000円で借りられるのだけでも、総額となるととても多額になってしまいます。私は東大が素晴らしいとは思っていませんが、東大に行っている家庭の年収は1,000万円以上の家庭がほとんどだそうです。そういったことで、大学進学に家庭に相当な収入が必要ということであれば、そういう仕組みが必要なのかなと思ったりするわけです。半面、学歴学歴と言わないで、今、専門学校だとか、色々な知識技術を身に付けて世の中に出よう、それこそが、生きてくことなのだと、大学に行くことだけが良いのかとか。色々な議論が出てくると思ったものですから、意見交換させてもらったところです。私は今、とりあえずこれでいくつもりです。ありがとうございます。 その他、せっかくなのでみなさんから何かありますか。このあと、教育委員会も引き続きあるとのことなので、何もなければそろそろ閉じたいと思い

三本町長	ます。
三原委員	以前、某子ども会のお母さんたちと喋ったときに、将来がわかんない。例えば、どこの高校へ行ったときに交通費がいくらなのか、授業料がいくらなのか、大学も公立と私立でいくらかかるのか、先が見えない。正直私もあんまりわかってないです。多分、過ぎた人はわかるのかもしれませんが、これからの人たちは、どう情報を仕入れたらいいのだろうという話をしたことがありました。奨学金の話も、そういったことで、見えないというか、わからないのが現状ですね。
三本町長	僕はいつも議会などで答弁したり、保護者の人たちと話して思うのは、子どもが生まれたら、ゴミ袋代等を色々な助成をしているところがあるよねっていう、当然その世代の方は、その時に有益な政策を求めるわけで、保育所に行くとか保育料無償化がいい、小学校行くと何々、中学に行くと修学旅行助成してほしいとか、その都度、子どもの成長に合わせて、支援があれば良いと思う。当然のことながら、求める教育支援や子育て支援の中身が変わってくるわけですよ。今三原委員さんがおっしゃった通り、生まれたばかりの子どもを抱えている親御さんが、社会人になるまでにどの時点でどのような支援をして欲しいかということは、実は誰も考えないわけです。だから私たちが考えなきゃいけないっていうことだと思っていて、そういう説明をしています。子どもが生まれ成人するまで、全体を通してきちんと支援し続けることが行政だと思っています。ただ、やれることとやれないことがあるということも話をしています。そういったことも含めて、教育行政を考え、説明していかなくってはならない。例えば体育館のトレーニングも若い人たちだけのものじゃなくて、介護予防のための器具も必要でああったり、そういう視点で整理をしていかないと説明ができない。それが私たちの仕事だと思っています。 先ほど教育長からありました通り、来年度から次のビジョンの検討が始まるとしたら、いつも言いますけど、皆さんがいつもそればかり考えていないでもいいのですが、日頃の生活の中で、言う中で、何か気がついたり、思うことがあれば、覚え止めていただき、私達に情報としていただけるのがこの場かなと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。 それでは、最後、その他の部分で何かないですか？すいません私の勝手な都合ですけどね、開催の時間をちょっとずらせていただいてまたいつものことながらまとまりのない話をしましたけど、でも、やっぱりこういうなんていうんだろうな資材書にのっとった会話でこの会議が終わったことには僕はしたくないと思ってるもんですからいつも好き勝手な思いをぶつけさせていただいていますし、皆さんもそれに応えて結構好き勝手なことを言ってくれてると信じてますんでそんな思いで共有できる時間があつたというふうに捉えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。
三本町長	5. その他 それでは、最後、その他何かございますか。
委員	ありません。

三本町長	それでは、本日は、本当にお疲れさまです。私としては、会議次第に則った、形だけの会議では終わりとくないと思っているものですから、私の好き勝手の思いをぶつけさせていただいていますし、皆さんも、それに応えていただいて、好き勝手に話してくれていると信じていますので、そういった思いを共有できる時間を過ごせたと思っています。 本日はありがとうございました。
委員	ありがとうございました。
	6. 閉会 16 : 15